

研修Ⅱ 高松 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造

「おすすめのゆうぐをしょうかいしよう！」

～『ふろしきは、どんなぬの』の説明の仕方を使って～（2年）

1 提案の概要

(1) 主張点

○ 単元を貫く言語活動の設定

言語活動をより児童の目的意識と重ねるために、第3次の活動を意識することで達成することにした。

○ 表を用いた比較

表にまとめることで、それぞれの文章の良さや違いが視覚的に理解しやすくなる。

○ 生きて働く国語力

二つずつ比較する活動を2回繰り返せば、3つのものを比較することができる。最終的には、多くのものの中から、目的に応じて最適なものを選択することができる力を養う。

(2) 実践発表

① 導入

アンケートから「ふろしき」の認識の低さを理解し、視覚的支援を行う。また、実際にふれることで、「ふろしき」の良さや多様性を実感できるように支援を行った。

② カードと本の説明の仕方を比べる

同じところを見つけることで、伝えなければならない用件を発見することができるようになった。また、比べやすいように見開きでノートを活用したり、色分けして分類できるようにしたりするなど、視覚的に内容や形式に目が向くように支援した。さらに、板書も同じように活用することで、学習内容を整理することができた。

③ 1年生におすすめの遊具紹介カードを書く

箇条書きの要点をもう一度見直すことで、各項目を児童とともに設定することができた。「おすすめのわけ」「使い方」「気を付けること」と視点を設定し、遊具を紹介するカードを書くことができた。

(3) 演習 「第3次の言語活動を設定しよう。」

まず、2年3年4年6年の読み比べる単元においてどのような第3次が考えられるかを各個人で考える。その後、周り情報交換する。

(フロアから出た例)

3年「ほけんだよりをよみくらべよう」…保健委員会などに、自分たちの学びを伝える第3次を考える。

2年「ふろしきはどんなぬの」…お箸の有用性を伝える第3次が考えられる。
つなぎ言葉を大切に文章を書く活動を設定する。

2 成果

○ 児童の目的意識がはっきりとしていたので、単元を通して児童の意欲が高いまま学習を行うことができた。

○ 相手が身近にすることで、相手意識が高まり、学習意欲の向上が図れた。

○ 学習した内容が、すぐに使える場を設けることで主体的に学ぶ姿が見られた。

3 課題

○ 「読むこと」の内容であるにもかかわらず、「書くこと」で第3次を設定してしまったことが課題である。

○ 場面に応じた文章構成や表現に違いがあることの押さえが弱かった。

真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造

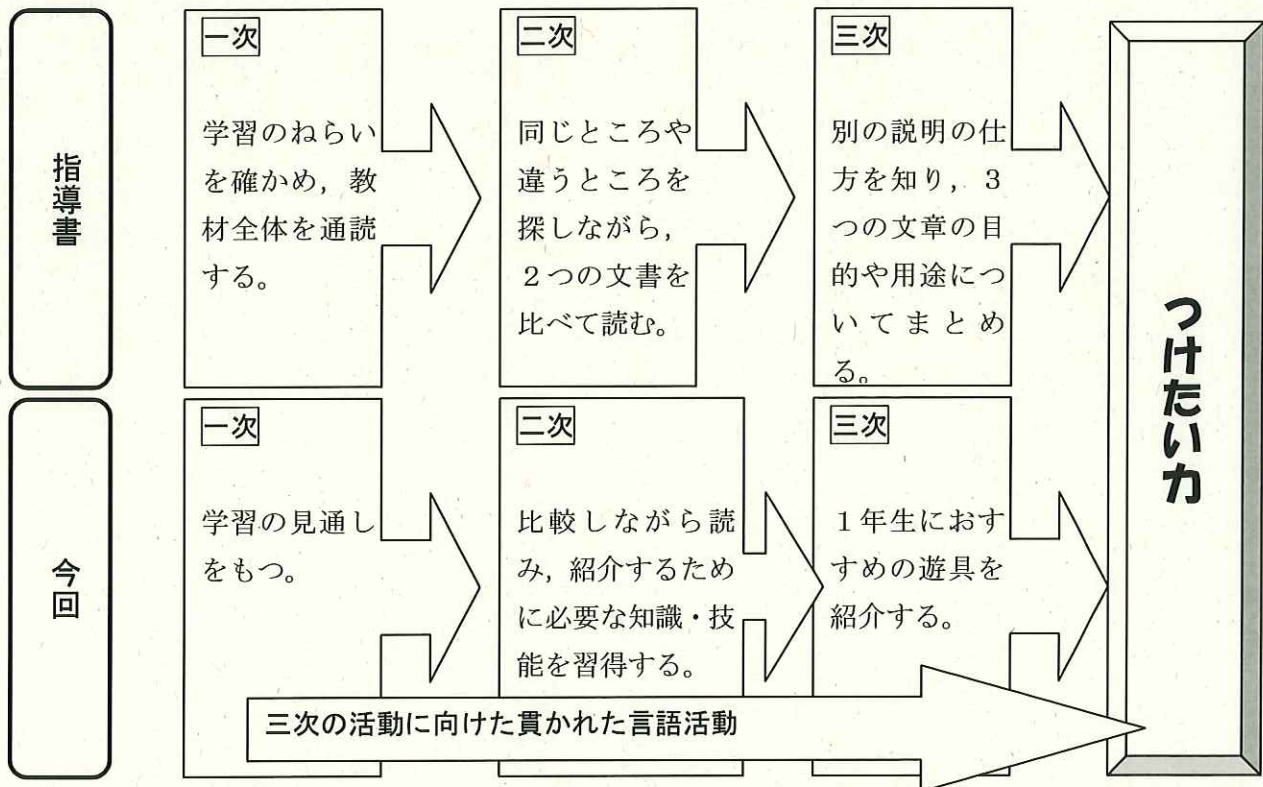
～ 単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり ～

おすすめの遊具を紹介しよう！

～「ふろしきは、どんなぬの」の説明の仕方を使って～（2年）

主張点

1 単元を貫く言語活動



設定の手順	本単元では
①つけたい力の明確化	単元の目標を「2つの説明の文章を比べて説明の仕方のちがいがあることがわかる」と設定し、場や状況に応じて最適な説明の仕方が選択できることをめざした。
②単元を貫く言語活動の設定（ゴールとなる活動）	単元の終末（三次）に、1年生にお気に入りの遊具を紹介する、という言語活動を設定する。1年生にわかりやすく紹介するために、説明の仕方を知らなければいけない、という目的意識・課題意識が生まれる。
③単元計画を細かく設定していく	単元を貫く言語活動をもとに、二次の比較をしながら読む活動や、一次の導入を細かく設定していく。

2 表を用いた比較

本単元で子どもは、

- ・ 箇条書き
- ・ 始め・中・終わりで構成された説明文
- ・ Q&A

の3つの説明の仕方を学習した。

それぞれの説明の仕方の良さを考える際には2つのものを比較していくことで、良さが分かりやすくなる。

本時では、箇条書きと始め・中・終わりで構成された説明文の2つを比較し、それぞれの良さについて考えた。その際、良さをを見つける手段として表にまとめながら比較していった。表にまとめることで視覚的にも違いが分かりやすくまとめられ、それぞれ良さがとらえやすくなるのではないかと考えた。

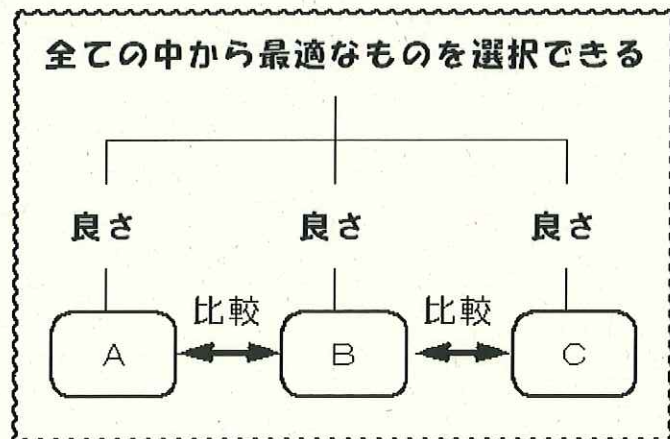
いいところ	読む人	カード	本
書きやすい字 メモしやすいう すく読める	何のあたりに 読むか (のり)	しりた か い もの に 来 た 人	本をか た 人 く わ し て し り た 人
見やすい 書いてある ことば	ど こ を お と き な か り や す い	い ろ な も の か し り た い	何 か し る た め い ろ な も の か し り た い
書きやすい ことば	ど こ を お と き な か り や す い	い ろ な も の か し り た い	何 か し る た め い ろ な も の か し り た い
書きやすい ことば	ど こ を お と き な か り や す い	い ろ な も の か し り た い	何 か し る た め い ろ な も の か し り た い

3 生きて働く国語力

比較する際には2つのことを比較するのがお互いの良さを見つけやすい。そのため本時でも3つの説明の仕方の中から2つを比較してそれぞれの良さを見つける。

このようにして2つずつを比較していけば、それぞれの良さが見つけられる。最終的には、それぞれの良さを理解した上で、場や状況に応じた最適な説明の仕方が選択できることが実生活で生きて働く国語力となる。

本単元では3つの説明の仕方しか取り扱っていないが、実生活ではもっとたくさんの中から選択して活用できることが生きて働く国語力となる。本単元はその力をつけるための導入ともなっているのではないか。



演習について

学習（習得）した説明の仕方をどのような場面で活用するか。その活用する場面である三次の言語活動を考える。

○ 演習の流れ

① 状況設定を考える【5分】

自分で、学年を選択して活用の場面を考える。下のポイントを参考にしてください。

活用する場面（三次）を設定する時のポイント

- ・習得した力がきちんと活用できる
- ・それぞれの活動に関連性があるか
- ・子どもの実態に合っている
- ・実生活に生かせる
- ・活用する場面に必要感がある
- ・児童の意欲をひきだせる
- ・他教科の内容や学校の行事と関連している

これらのポイントをおさえた、活用の場面を考えてください。

② 近くの人と交流【2・3分】









近くの人と考えたことを交流してください。自分と同じ学年をしているとはかぎりませんが、参考になるようなるべくたくさんの人の考えを聞いておくとよいです。聞いたことは、㊦の枠の中に書いてください。

③ 全体で発表【2・3分】

何人かの方に全体で発表していただきます。よろしくお願いします。

④ ふりかえり

○ 6月の読む力を身に付ける単元（東京書籍）

	2年	3年	4年	5年	6年
単元名	せつめいの文をくらべて読もう ふるしきは、どんなぬの	書く人のくふうを考えよう 「ほけんだより」を読みくらべよう	目的による表し方のちがいを考えよう 広告と説明書を読みくらべよう	書き手の意図を考えながら新聞を読もう 新聞記事を読み比べよう	書き手のくふうを考えながら新聞の投書を読もう 新聞の投書を読み比べよう
一次【読】	学習のねらいを確かめ、教材全体を通読する。	学習のねらいを読み、読み比べの観点を理解する。	学習の見通しを持つ。	新聞について理解する。	教材のねらいを確かめ、新聞の投書について理解する。
二次【読】	同じところや違うところを探しながら、2つの文書を比べて読む。	2つの文章に書かれていることを読み取り、2つの文章を比べて読む。	広告と説明書の目的と特徴を確かめながら読み、観点に沿って読み比べる。	2つの新聞記事を様々な観点から読み比べ、記事と写真に合った見出しを書く。	投書を読み、書き手の主張を読み取り、読み手を説得するための理由付けの仕方や根拠の挙げ方の工夫をとらえる。
三次【書】	別の説明の仕方を知り、3つの文章の目的や用途についてまとめる。  	よいと思うほうを選び、その理由を文章に書く。  	広告と説明書の違いについてまとめ、まとめをする。  	学習のまとめをする。	投書の中から納得できるものを選び、観点を明確にしてその理由を書く。  
付けたい力	2つの説明の文章を比べて説明の仕方のちがいがわかる。	事柄の取り上げ方や、説明の仕方の違いを読み取ることができる。	広告と説明書の表し方の違いや述べ方の工夫を読み取ることができる。	2つの新聞記事を読み比べて、書き手の意図を読み取ることができる。	読み手を説得するための工夫を読み取る。

三次の言語活動（＝単元を貫く言語活動）を考えよう。

1 どの学年の6月単元にするか書いて下さい。（5年生以外）



2 どのような三次の言語活動にするか考えて書いて下さい。

※ ①…自分の考えたこと ②…友達などほかの人が考えたこと

①

②

【授業実践】

1年生におすすめの遊具を紹介しよう！

～「ふろしきは、どんなぬの」の説明の仕方を使って～

1 第一次(導入)

■説明の仕方の違いや良さに着目し、児童が主体的に学習できるように1年生におすすめの遊具を紹介する言語活動を設定した。

■ふろしきについて知っている児童は31人中3名と少なかった。そこで、図書館指導員と連携を図り、読み聞かせとふろしきで包む活動を取り入れて「ふろしき」について理解を深めた。



【図書館指導員による読み聞かせ】

森山京著『いいもの、もらった』（小峰書店）



【いろいろなものを包む実演】

水上みのり著『ふろしきばあちゃん』（福音館書店）

・『いいもの、もらった』では、一枚のふろしきがいろいろなものに変身する様子を聞いた。ふろしきが「まほうのぬの」であるという本文との関連性も図った。

・『ふろしきばあちゃん』では、出てくる結び方を実演を交えて紹介し、「包む」「結ぶ」「繰り返す」「かえる」などのことばのイメージを体感した。

2 第二次(カードと本の説明の仕方を比べる)

(1) 同じところを見つける

■同じところや違いが一目見て分かるように、ノートを見開きで使用。

■同じところを比べる活動では、カードの文・本の文章ともに赤・青・緑で線を引き、同じところを見やすくした。

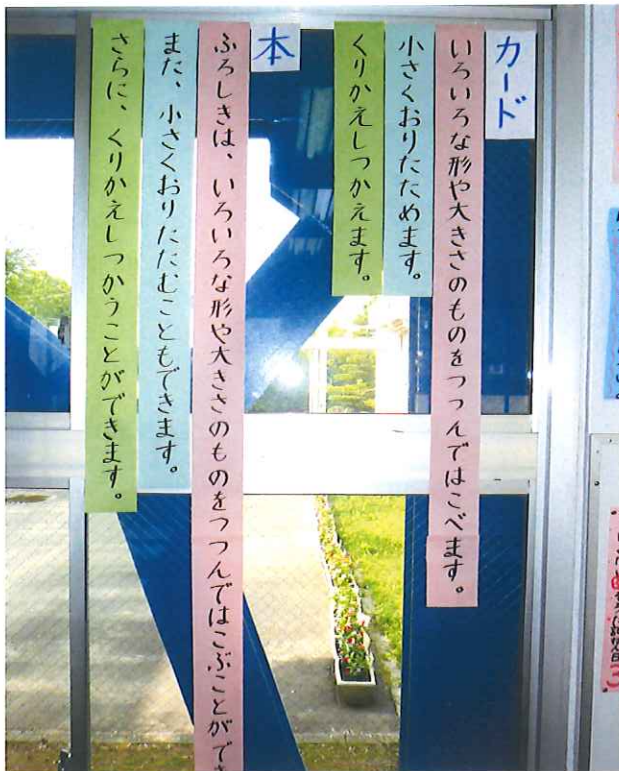
■板書も同様なものを使い、説明の仕方の違いを視覚的にとらえられるようにした。

文の題 三つ	文の題 カートの文	文の題 三つ	文の題 カートの文
二つの文 一文目：二十 二文目：十	二つの文 一文目：二十三	二つの文 一文目：二十 二文目：十	二つの文 一文目：二十三
三つの文 一文目：十五 二文目：十 三文目：五	三つの文 一文目：二十 二文目：十 三文目：十	三つの文 一文目：十五 二文目：十 三文目：五	三つの文 一文目：二十 二文目：十 三文目：十
包んで だいたひこ	包んで だいたひこ	包んで だいたひこ	包んで だいたひこ
包んで だいたひこ	包んで だいたひこ	包んで だいたひこ	包んで だいたひこ

●本のつづいた文しよを、書きつうしよう。

●カートの文と本の文を比べて、同じところや違いを、赤・青・緑の線でつづいて、見やすくしよう。

【児童のノート】



【色別カードに「同じところ」を書いて掲示】

(3) 2つの文のそれぞれいいところを見つける

いいところ	読むために 読むか(むむ)		読む人
	カード	本	
カードも本もどちらもわかりやすいです。	どっちもかたいじなことをみじかく書いている。	どっちもかたいじなことをみじかく書いている。	カード しりたい人 かいものに来た人
	ぐたいきに書いている。	何かするたのしみ しらべろしりたい くらべる人	本 をかいた人 くわしくしりたい人

【児童のワークシート】

■カード・本それぞれの「読む人」「読む目的」「いいところ」を表にまとめて、1年生に遊具を紹介するためにはどちらの方法がよいか考えた。

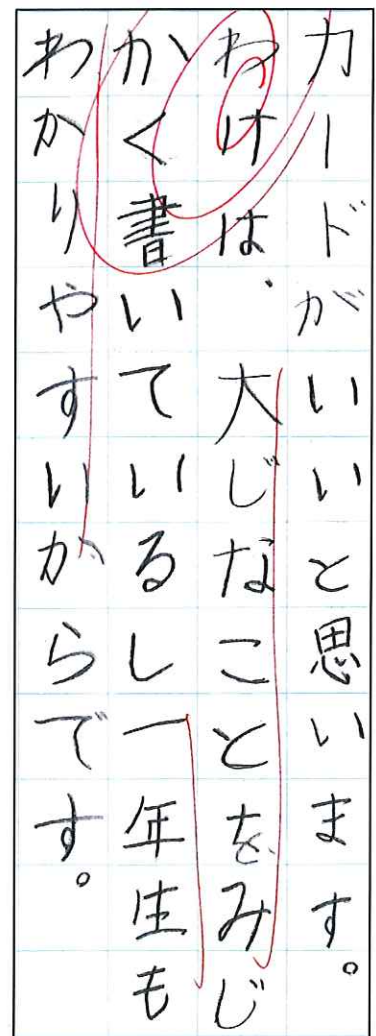
■「遊具に掲示する」という観点から、短いことばで大事なことをまとめて書いている「カード」を選ぶ子がほとんどだった。

(2) 2つの文の説明の仕方を比べる

■カードの文と本の文章を比べる活動では、「一つの文の長さ」「文の数」「書かれていること」の観点で表にまとめた。

■「一つの文の長さ」を比べる活動では、数字の比較だけではイメージがわきにくかった児童もいたが、それぞれを紙に書き出して比べることで、長さを体感でき、その違いに驚きの声が上がっていた。

■「書かれていること」を比べる活動では、カードの文は特徴を短く書いていること、本の文章は特徴を詳しく書いていることなどを表に書いている児童が多かった。



【児童のノートより】

■児童にとって「簡条書き」を学習するのは初めてだったため、校内を回って簡条書きで書かれているものを探した。玄関にあった交通安全の注意書きや本校の教育目標など様々な掲示物から意欲的に簡条書きで書かれているものを見つけた。

3 第三次(1年生におすすめ遊具の紹介カードを書く)

①おすすめ遊具カードに書く項目を決める。(「おすすめのわけ」「使い方」「気をつけること」)

②教材文のカードを見て、カードに「見出し」がついていることを学習し、紹介したい遊具の見出しを考える。

児童の考えた見出し

- ・お空にいけるすべりだい
- ・風がよくあたるブランコ
- ・きたえられるてつぼう
- ・力をつかううんてい
- ・けしきがいいジャングルジム
- ・空までいけそうなのぼりぼう
- ・とんでいけそうなすべりだい
- ・とおくまで行けるブランコ
- ・やればできるてつぼう
- ・トレーニングにもなるうんてい
- ・すずしいジャングルジム

③遊具カードを書く。(2時間)

■教材文のカードの文末は敬体であったが、児童から「文末を短くする」という意見が出たため、常体での書き方にした。

■校内で簡条書き探しを行った際、児童から「文が変なところで切れないように行を変えている」という気づきがあった。そのため、紹介カードも文の切れ目に注意して書いた。

けしきがいいジャ
んぐるじむ
○たかいところ
みずをみると
なれてきたい
からのぼる。
○てをはなさない。

いえがみえる
ぶらんこ
○このだらど
たのしい。ど
いかにえたら
かわる。
○くさりをはな
さない。

【実際に掲示した遊具カード】

④「質問」と「答え」による説明の仕方を知る。

■2年生にとって「質問」「答え」ということばよりは「クイズ」と言った方がイメージしやすいようだった。

■初めに教科書の「手引き」を使って「質問」と「答え」を確認した後、教師が示す「答え」に対する質問を考える活動を取り入れた。その後、ペアで「質問」と「答え」の文を作り発表し合った。

⑤おすすめ遊具の Q&A を作る。

■遊具ごとのグループで作ることによって、全員の児童が無理なく活動できるようにした。



【Q&A を考える児童】

⑥一年生と遊具で遊ぶ



【ブランコに掲示されたカード】

自分の紹介したい遊具に紹介カードを掲示したよ！

1年生が書いたカードを読んでくれて嬉しかったよ。「読みやすい」と言ってもらえたよ！



【カードを読む1年生】



【真剣に Q&A を読む1年生】

ブランコをするときに気をつけることはどんなことだったかな…。

■紹介カードを掲示し、1年生に読んでもらった。1年生からは「遊具の使い方が分かった」「読みやすかった」と感想を言ってもらえた。

■遊具で遊んだ後、1年生の教室に掲示した Q&A コーナーで遊具の使い方を確認してもらった。

⑦単元を振り返る。

■単元を通して学んだことを振り返った。

○カード（かじょう書き）と本のせつめいの仕方比べてわかったこと

○本の方にはくわしりせつめいがあるけれど、見たとときに本の方は長く読むのに時間がかかるけど、かじょう書きは短く書いておくと、時間がかからないからいいと思った。

○ゆらぐをしようかいたために、カードに書いてみて思ったこと

○ちやんと読んでくれるかなと田んぼで読んでくれたのでよかったです。

○このおへんきょうをしてわかったこと

○1年生も長い女しょうの方よりかじょう書きの方が読みやすいことがわかりました。

～児童の振り返りより～

- ・本には詳しい説明があつていいけれど、ぱっと見たときに長くて読むのに時間がかかる。かじょう書きだったらぱっと見ても分かりやすいし、読むのに時間がかからないからよかった。
- ・1年生がちゃんと読んでくれるかなあと思ったけれど、最後まで読んでくれたのでよかった。
- ・いろんな説明があるんだと分かりました。
- ・カードが読みやすいと思ってやってみたら、1年生がすらすら読めていたのでよかった。

【児童の振り返りシート】

4 (1) 成果と課題

○本・カード(簡条書き)・質問と答え(クイズ)の説明の仕方を学び、それぞれに良さがあることを、1年生の反応を通して児童が実感をもって学ぶことができた。

○前単元の前にある「まよい犬をさがせ」ではメモの取り方を学習し、「大事なことを短く書く」ことを学んだ。本単元では初めて「簡条書き」について学習した。校内の簡条書きを探したり、本時で簡条書きの良さ取り上げたりした。この単元の後、生活科で調べ学習をしたときには10人の児童が分かったことを簡条書きのよさを理解し、実生活に生かすことができていた。

○説明の仕方を学ぶために、子どもにとって身近な「遊具」を紹介することを単元を貫く言語活動として設定し、単元計画を立てた。児童は目的意識を持って活動することができた。

▲本単元は比べて読む単元であった。遊具の紹介カードを書く活動を入れることで、文章の解釈にかかる時間が少なかった。児童は、積極的に音読を行い書かれている内容を理解していたので、学習活動においてつまづくことはなかったが、もう少し文章中の言葉にこだわって読んでもよかった。

▲それぞれの説明方法について、場面や用途に合わせた文章構成や表現の違いがあることの押さえが弱かった。

(2) 課題の改善案

●文章中の「べんりなぬの」「まほうのぬの」などのキーワードについて、どんなところが便利なのか、どうして「まほうのぬの」なのかを話し合う活動を入れる。

●場面や用途に合わせた文章構成について

・本の文章とカードを教室のふろしきコーナーに置いてみて、どちらが適切か考える活動を取り入れる。

→コーナーにある本とカードを比べて、表現の違いを体感することができる。

・連絡帳、ありがとうカード、日記などをとりあげ、日常生活の中でもどのような書き方をするのが適切かを考える活動を入れる。

→「簡条書き」(短く)と「本」(詳しく)どちらの書き方がいいのか理由を考えることで、用途に合わせた書き方があることへの理解を深める。



単元の指導計画（全12時間＋学級活動・朝の活動）

次	時		評価規準（■評価方法※活動内容）
第一 次		【朝の活動】 遊具の使い方	※チャレンジタイムで遊具の使い方を確認し、実際に遊ぶ。
	1	教材文を通読し、学習の見通しを持つ。	学習のめあてをつかみ、比べる二つの文章はどれとどれかを理解している。（関・読） ■発言・行動観察
第二 次	2	二つの文章を視写し、音読する。	文章を正しく視写し、語のまとまりに気をつけて音読している。（書・読） ■ノート・音読・行動観察
	3	視写した二つの文章の同じところに線を引くことで、違いを見つける。	同じところに線を引くことで、二つの文には違いがあることを見つけている。（読） ■音読・ノート・行動観察
	4	説明の仕方の形式に注目して二つの文を比べ、違いについて三つの観点で比べる。	一文の長さ(文字数)、文の数、書かれていることの観点で二つの文章の違いを読み取って発表できる。（読） ■ワークシート・ノート・発言
		【朝の活動】 校内で簡条書き探しをする。	玄関の掲示物や掲示板などから簡条書きで書かれたものを見つけ、どういう特徴があるか発表し合う。
	5 本 時	二つの文の「違い」からそれぞれの文の良さについて知り、おすすめの遊具を紹介するのに適切な書き方を考える。	書かれている内容の違いに目を向けて、場面や用途に合わせた使用方法があることに気づき、おすすめの遊具を紹介するには簡条書きがよいことを理解する。（読） ■発言・ノート
第三 次	6	簡条書きの書き方と、見出しの良さについて知る。	教材文のカードの見出しを使って、見出しの良さを理解し、見出し作りができる。（読・書） ■発言・ノート
	7	遊具カードの簡条書きの項目を話し合う。	遊具の仕組みや特徴から、簡条書きの項目としてふさわしいものを理解している。（読） ■発言・ノート
	8	簡条書きの良さを生かして遊具カードを書く。	前時までに学んだことを生かして、おすすめの遊具の仕組みや特徴をカードに書くことができる。（読・書）
	9		■発言・ノート・表現物
	10	「質問」と「答え」による説明の仕方を知る。	「質問」と「答え」による説明の仕方を理解し、「答え」になるところを探しながら読んでいる。（読） ■発言・行動観察
	11	おすすめ遊具のQ&Aを作る。	選んだ遊具によってグループを作り、遊具に関するQ&Aを書くことができる。（読・書） ■行動観察・表現物
		【学級活動】 一年生におすすめの遊具を紹介しよう。	※おすすめの遊具に作った紹介カードを掲示しておき、一年生といっしょに遊ぶ。その後一年生を、教室に設置した遊具Q&Aコーナーへ連れて行き、遊具の使い方などが伝わっているか確かめる。
12	学習を振り返り、まとめをする。	単元を通して学んだことをノートに書くことができる。（関・読） ■発言・ノート	